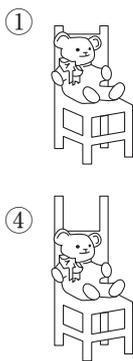
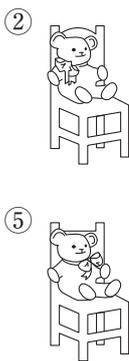
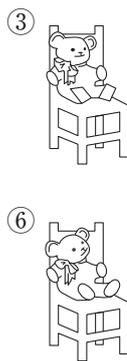


国語

国語

第1問

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。



《図》



〈見本図形〉

これには課題に取り組む姿勢、

課題解決のスタイルが関係しています。

A 少しずつ違う六個の図形の中から、見本図形と同じも

よく(あの人は)「知能は高いけれど聡明ではない」「勉強はできるけれど賢くない」などといっています。I 「空気が読める」かどうかが問題にされます。ここには、人はIQや学業

成績が高いだけではダメ、他者への配慮や協調性などの社会的能力を備えていることが大事という人間観が反映されています。【1】

知情意という言葉があり、理性、感情、意思は別な能力かのように考えられがちですが、日本人の「頭のいい」概念は、知情意は分離できない 甲 としたもののなのです。「空気を讀む」ことが重視されKYという語までできたのは、日本ならではです。知能指数(IQ)に対してEQ感情指数が提唱されていますが、これは知能や頭のよさを知力中心で考えてきた反省に立っての、アメリカならではの批判的な発想、といえるでしょう。

この「頭がいい」概念は、単にそう思われているだけではなく、そうなるよう人々に働きかけています。他者への気配りと協調性、謙虚で出過ぎない態度が、子どもにもおとなにもしつけや学校や職場での教育などを通じて養成され、日本人の発達を特徴づけています。知的発達とは、文化のもつ「頭がいいこと」「知的である」ことへの 収斂——社会化なのです。

のを探す課題《図》にどう取り組むか——認知スタイルには、大別して二つのタイプがあります。一つは、反応は早いけれどもエラーを多発するタイプ——衝動型。もう一つはすぐ反応せず時間がかかるけれどもエラーは少ないタイプ——抑制型／熟慮型です。

一般に、幼い時ほど衝動型なのが、次第に熟慮型に移行していきます。これはどこの国でも共通ですが、日本の子どもは他国の子どもよりもずっと早く熟慮型になってしまいます。なぜなのでしょう？

図形の弁別能力に違いがあるからではありません。日本の子どもたちは、課題が出されると答えを思いついてもすぐには反応しない——「これでいいかな？」「間違いではないか？」と自問自答します。これに時間がかかるのです。その上での答えですから、誤りは少ないということになります。これは、間違いは避けて正解をとの圧力を感じていて、「失敗しないように」「間違っではない」との警戒心が強く働く結果です。これと ^a タイシヨウ的なのがアメリカの子どもです。すぐ反応する衝動型が多く、これが長く続きます。ここには、間違いや失敗をおそれず思ったことを ^b ソッチョクに自己表現することに価値をおくアメリカの文化風土が反映されています。

認知スタイルはおとにもあります。話をしている時、相手の話や質問にすぐ反応する人（衝動型）と、黙っていてなかなか答えず、ややあつて答える人（抑制型／熟慮型）がいるでしょう。日本では衝動型の人はおっちょこちよいだとか、気さくだけれど思慮不足などとみなされ、熟慮型の方がよしとされる傾向があります。熟慮型という表現はいかにも「よく考える」との好印象を与えますが、逆に見れば、思ったことをソッチョクに表現しない、失敗回避の消極的な態度で、自由な発想や個性的考えを抑えてしまうことになりがちです。

日本の子どもの熟慮化傾向は小学校に入学すると急激に進みます。間違わないように、正解を、そのために慎重にとの圧力が学校では強く作用しているからです。欧米から帰国した子どもたちはしばしば「不適応」とされます。すぐに答えて間違うと、「よく考えて」と注意される。納得するまで質問すると、「しつこい」と非難される。その子どもは「自己表現が大事、（わかるまで）

質問は当然」と思っているからそのようにふるまっているのですが、じっくり考え間違わないのが「いい子」という日本の学校では、問題児になってしまうのです。帰国児童問題は課題解決態度をめぐる文化「マサツ」^cともみなせましょう。【2】

^B いわゆる「いい学校」卒の大学生は概して熟慮型傾向が強いものです。指示された課題をきちんとこなすことには長けていますが、自分の発想で人とは違うことをするチャレンジ精神や馬力は弱い傾向があります。

「いい」学校には、誤りを避け正解を求め、課せられたことをしこしこ努力することへの社会化が強いのです。その「いい」学校に入学するには、脱線したり探索したりへの勉強ではダメ、余計なことには眼もくれず間違いを避け正解を追求する勉強をしてきたでしょう。こうした長期にわたる熟慮型への社会化が、慎重、勤勉、しかしチャレンジ回避、指示待ち人間をつくり出しています。この種の社会化は職場にもあるでしょう。

知力の個性を知るにはIQや知能検査総合得点ではなく、言語性知能と非言語性知能を分けてみる必要があることを述べました。^C しかしこれでも知力の個性は十分には捉えきれません。学生の指導をしていますと、知能レベルは等しいのにそれぞれが得意な領域、^d 不得手な領域が違うことを痛感させられます。文献の緻密な^e コウドクと論理的な思考に優れた人、実験装置の設定やコンピュータによるデータ処理が得意な人、学校や施設など現場での面接や観察データ収集に優れている人、などです。職場でもそうでしょう。知力が発揮される領域が違う、そこで発揮される知力の質——頭の使い方の違いです。

スタンバーグは、いずれもIQが一三〇と極めて高い三人のハーバード大学での同級生が、それぞれ別な分野で高い業績を上げた例を紹介しています。一人は精緻な論理的思考が得意で、理系の研究者／大学教授に、大局的概観と総合的理解に優れたもう一人は裁判官に、もう一人は実際の問題への強い関心と理解に優れ実業家にと、それぞれの分野で高い業績を上げていく由です。知能の高さ以外に、どのような領域に関心をもちどのような頭の使い方が得手かに個性があるのです。それを自ら知ってなのか、周囲のアドバイスによるのかは不明ですが、知能指数には反映されない知力の特質に眼を向けそれを活かすことが、本人にとっても社会にとっても重要なことを示唆しています。【3】

子どもでもおとなでも、テスト成績と日常生活での行動や成果との間にはギャップがあるものです。人の能力は条件によって変化するものですから、ギャップがあるのは当然です。この問題をロシアの心理学者ビゴツキーは「発達の最近接領域」として重視しました。どのような条件で成果が上がるかに知力の個性をみたのです。誰かと一緒に作業した時に高成績になる人、ちよつとヒントが与えられればすぐできる人、誰かの作業をみただけでできてしまう人、一人ですること伸びる人、などです。能力が発揮され育つ条件が人ごとに違う、知力発達上の個性です。

このことは学校や職場での教育や指導法に関連します。誰にとってもベストな教え方や作業条件というものはなく、どのような個性をもった人かによって効果的な方法は違うのです。

D これは「適性処遇交互作用」といわれます。対人関係が苦手な人、自分でやることで納得する人、集団の中にいると活性化し力を発揮できる人、理屈を知らないダメな人など、その人の個性に見合った学習場面や教育法でなければ、いくら熱心に教えても時間をかけても効果は上がりません。教育や指導法の効果は学習者の個性とマッチしているかどうかによる、個性（適性）に応じた処遇—教育が有効なのです。

学校も職場も集団生活が基本ですから、各人に見合った条件を設定することには限度があるでしょう。 **II**、適性処遇交互作用のことを念頭においていれば、ある方法や条件での成績だけで、この人はダメとかいいとか評価する危険性は避けられるでしょう。 **【4】**

このように人の能力が経験の中で変化し発達する——発達の「可塑性、柔軟性を考えますと、一回限りの入社試験成績で処遇を決めてしまうことがいかに危険かは明らかです。知能検査のIQに **乙** するのも誤りです。いろいろな課題や状況での能力発揮のチャンスが与えられることで、自分が生き生きと取り組め、成果が上がる課題を確認でき、 **E** 自分の個性について認識を深めることとなります。

先の三人の例ほど明白ではありませんが、誰にも「頭の使い方」の得手不得手があり、知力が発揮され発達する条件には個人差

があります。自分の個性、同僚の個性、上司の個性を考えてみてください。その人の知性の質が活かされているかどうかは、本人にはもちろんのこと、職場にも大事です。理由は二つあります。第一は、個性が発揮されることで成果が上がる。これは本人にはもちろん、職場にとっても重要なことはいまでもありません。第二に、自分の力が活かされて成果を挙げることが、自信を生み自尊感情を高めることです。

自信―自尊―自己肯定感
人の生存を支える根源的感情です。アイデンティティの基盤です。自分の存在や力が意味あるものだと認識できていることは、成長発達の基盤です。臨床相談に来る人々がよく口にするのは、「自分なんか……」「どうせ私は……」です。これは自己肯定感／自尊感情とは正反対、自分の存在も成長発達することも諦めて放棄した状態です。

一芸に秀でた人の知能指数が必ずしも高くないことは先に述べました。その芸以外のこと――社交性や日常生活上のことは全くダメな人も少なくありません。でも、それで自分はダメだ、生きている意味はないなど自暴自棄にはなりません。Ⅲ 強い自尊感情を抱いています。それは、自分が選び精一杯歩んでいるその一筋の道で成果を上げていることによって支えられています。

成果とは、何でもできるオール5とか、誰よりも一番、社会的に認められる、ということではありません。何であれ「それなら任せて」「これが得意」といえるものをもつことです。

自分が選んだ限られた領域で精一杯努力し、自分の納得できる結果が得られた、その活動を楽しめる、それが重要なのです。テーマは職業に限りません。家庭や地域での活動でもあるでしょう。誰にも得手不得手があり、得手の領域で活動できるのは楽しく、成果も上がります。自尊感情を抱き、達成感・有能感を味わえます。【5】

(柏木恵子『おとなが育つ条件――発達心理学から考える』より。問題作成の都合上、本文に一部改編がある。)

問一 線部 a～e について、カタカナは漢字に直したものを、漢字は読みがなを、各群の①～⑤の中からそれぞれ選べ。

解答番号は ～ 。

a

タイシヨウ

- ⑤ 対照
④ 対症
③ 対称
② 対償
① 対象

b

ソツチヨク

- ⑤ 愚直
④ 卒直
③ 素直
② 率直
① 垂直

c

マサツ

- ⑤ 魔察
④ 磨察
③ 磨擦
② 麻擦
① 摩擦

d

不得手

- ⑤ ふどくしゆ
④ ふとくじゆ
③ ふとくい
② ふえて
① ふえて

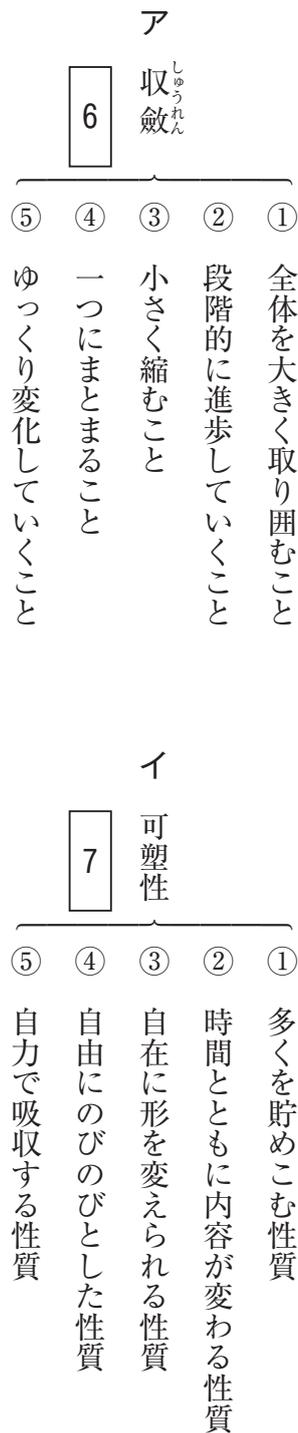
e

コウドク

- ⑤ 溝読
④ 稿読
③ 講読
② 購読
① 考読

問一 波線部ア・イの本文中における意味として最も適切なものを、各群の①～⑤の中からそれぞれ選べ。

解答番号 6 ・ 7 (ア…6、イ…7)



問三 空欄 I ～ III を補うのに最も適切な言葉を、次の①～⑥の中からそれぞれ選べ。(同じものを繰り返し用いては

ならない) 解答番号 8 ～ 10 (I…8、II…9、III…10)

- ① しかし
- ② すなわち
- ③ また
- ④ むしろ
- ⑤ もちろん
- ⑥ ゆえに

問四 空欄 甲 ・ 乙 を補うのに最も適切な言葉を、各群の①～⑤の中からそれぞれ選べ。

解答番号 11 ・ 12 (甲…11、乙…12)

- | | |
|---|---|
| <p>甲</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 蓋然 ② 渾然 ③ 天然 ④ 漫然 ⑤ 瞭然 | <p>乙</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 一喜一憂 ② 臥薪嘗胆 ③ 喜怒哀樂 ④ 欣喜雀躍 ⑤ 内憂外患 |
|---|---|

問五 傍線部A「少しずつ違う六個の図形の中から、見本図形と同じものを探す課題《図》にどう取り組むか」とあるが、この

「課題」とそこから導かれることを説明した次のa～dの文について、適切なものは①、適切でないものは②を、それぞれ選

べ。 解答番号は

13

 ～

16

 (a :

13

 , b :

14

 , c :

15

 , d :

16

)

a 椅子の背もたれの形状に注意を払わず、人形の形状のみで②を選ぶのは「衝動型」といえる。

b 椅子の背もたれの形状に注意を払って③を選ぶのは、「抑制型／熟慮型」といえる。

c 椅子に人形が座っているという全体像だけでなく、首につけられたリボンの形にも注目して⑤を選ばないのは、「抑制型／熟慮型」といえる。

d 「衝動型」と「抑制型／熟慮型」を比べた場合、後者のほうが図形を見分ける能力が優れているといえる。

問六 傍線部B「いわゆる『いい学校』」とあるが、「いい学校」に対する筆者の考えとして適切なものを次の①～⑥の中から二つ

選べ。 解答番号は

17

 ・

18

① 「いい学校」に入学することで、誤りを避け正解を求め、余計なことには眼もくれず努力する能力が身に付く。

② 「いい学校」に入学するには、間違いや失敗をおそれることなく思ったことを自己表現する能力が求められる。

③ 「いい学校」で求められる性向は、消極的な姿勢へとつながり、自由な発想や個性的な考えを抑圧してしまう。

④ 「いい学校」で求められるのは、長期にわたって熟慮化傾向を維持できる忍耐力や勤勉さといった気質である。

⑤ 「いい学校」を卒業した人は、熟慮型の日本社会で育まれた勤勉さや慎重さを持ち合わせていることが多い。

⑥ 「いい学校」を卒業すると、おっちょこちょいや思慮不足などとみなされることなく職場での活躍が期待できる。

問七 傍線部C「しかしこれでも知力の個性は十分には捉えきれません」とあるが、その理由として最も適切なものを次の①～⑤

の中から選べ。 解答番号は 19

- ① どのような分野に興味を持ち、そこでどのように頭を使うかが、おのおの異なるものであるから。
- ② 知力の個性をみるには、知能指数（IQ）だけではなく、感情指数（EQ）も考慮する必要があるから。
- ③ 知能指数には示唆されない知力の特徴を活かすことが、本人にとっても社会にとっても重要であるから。
- ④ 日本の学校や職場では熟慮型の人物が求められ、その能力は文化の違いが影響するため測定が困難であるから。
- ⑤ 知能には言語性と非言語性の二つの分野があり、それらを区別して捉え直さないと知力の個性は測定できないから。

問八 傍線部D「これは「適性処遇交互作用」といわれます」とあるが、「適正処遇交互作用」に対する筆者の考えとして最も適

切なものを次の①～⑤の中から選べ。 解答番号は 20

① 学校や職場での教育や指導法を考える上で、どのような教育を行えば誰にとってもベストな教え方や作業条件になるかが大切である。

② 学校や職場での処遇を考える上では、それぞれの人が最大限に能力を発揮できる条件を個別に設定しなければならない。

③ 個人の能力が発揮され育つための条件は学校や職場といった集団生活の場ごとに異なり、指導者には個性的な教育のあり方が求められる。

④ どのような個性をもった人かによって効果的な方法は違うため、教育や指導法の効果は指導者の個性とマッチしているかどうかに関わってくる。

⑤ どのような適正をもった人かによって能力の発揮される条件は違うため、特定の条件だけで個人の能力を評価するのは適切ではない。

問九 傍線部E「自分の個性について認識」とあるが、「自分の個性」に対する筆者の考えとして適切でないものを次の①～⑤の

中から一つ選べ。 解答番号は 21

- ① 自分の個性が発揮できない環境では、成長発達の基盤となる自尊感情を持つことは難しい。
- ② 自分の個性が発揮できる環境にいることは、本人だけでなく周囲の人にとっても有益といえる。
- ③ 自分の個性が発揮できる環境下にあることで、自己肯定感を持つことができる。
- ④ 自分の個性が発揮できる場は学校や職場に限定されず、その人の実力が社会的に認められる場であればよい。
- ⑤ 自分の個性が発揮できる場は自身で選べばよく、そこで本人が納得する成果が得られるかが重要である。

問十 次の文を本文中に補う場合、最も適切な場所を次の①～⑤のうちから一つ選べ。 解答番号 22

これは人が生きる上で最も重要なこと、人間の権利ともいえるものです。

- ① 1
- ② 2
- ③ 3
- ④ 4
- ⑤ 5

第2問

次の各問いに答えよ。

問一 A～Eの作品の作者を、次の①～⑧のうちからそれぞれ選べ。

A	行人	解答番号	23
B	五重塔	解答番号	24
C	金色夜叉	解答番号	25
D	春琴抄	解答番号	26
E	地獄変	解答番号	27
①	芥川龍之介		
②	尾崎紅葉		
③	川端康成		
④	幸田露伴		
⑤	谷崎潤一郎		
⑥	夏目漱石		
⑦	武者小路実篤		
⑧	森鷗外		

問二 A～Eの語句の意味を、次の①～⑧のうちからそれぞれ選べ。

A 曲がない	解答番号	28
B 歯 ^し 牙にもかけない	解答番号	29
C 尻に火が付く	解答番号	30
D 伝家の宝刀	解答番号	31
E 役不足	解答番号	32

- ① 愛想がない
- ② 相手にしない
- ③ いざというときの切り札
- ④ 急いで逃げ出す
- ⑤ 関わりにならないよう遠ざける
- ⑥ さし迫って落ち着かない
- ⑦ 本人の力量に対して役目が軽すぎることに
- ⑧ 本人の力量に対して役目が重すぎることに

〔以下余白〕